

イノシシ、イッシッシ

株式会社榎戸材木店
会長 榎戸正人

冬眠しないクマが、この冬は12月になっても年を越しても人里に現れて被害者が続出するという異例の事態について前号に書きました。千葉県は本州で唯一、クマのいない県で被害が多発している各県から羨ましがられています。なぜ千葉県にクマがいないのかは分かっていません。

利根川や江戸川に挟まれ、クマが移動できなかったという説も、川を泳いでいるクマの姿が放映されると疑わしくなります。河川の両岸には民家が多数あり、それが移動を阻む理由だという説も、民家が増えたのは明治時代以降で江戸時代には野原だったので理由にはなりません。

千葉県にはクマが餌とする木の実をつける樹種が少なく、生息に適さないという説も眉唾物で、中部から南房総にかけてはドングリのなる樹種も多数ありますし、農家の庭先に柿の木が植えられているのも、よく見かけます。どう考えても、他の県との違いが見当たりません。

しかし理由はともかく、クマがいないというのは有難いことですが、それでは農家は被害がないのかというと、クマ以外の野生生物に悩まされています。それはイノシシとキョンと呼ばれる小さなシカのような生き物で、いずれも繁殖力が強く農作物への被害が多発しています。

キョンは元々、台湾に生息していたのを可愛いからと千葉南部に「キョン牧場」を作り、家族連れの観光地にしようとしたのですが、最初は珍しがつて訪れる人たちはいても、餌をやって頭をなでるだけではリピーターは来ません。マザー牧場のように新鮮なミルクや肉などのお土産がなくては……

結局、経営破綻したキョン牧場は放置され、逃げ出したキョンが繁殖してしまいました。今や生息域は千葉県全域に拡大しつつあります。埼玉県や茨城県にも拡大するのはと心配されています。

イノシシも、かつては肉や毛皮が利用されていたので捕獲する人もいたようですが、今では捕獲する人もいなくなり、繁殖し放題です。ついに浦安市でも目撃情報が寄せられ、トラックの荷台に紛れて来たのだらうと言われています。怖さを知らない子供たちは「わ！イノシシだ」と追い掛け回したりして、小学校などではイノシシを見たら逃げるように指導したそうです。

イノシシもシカも、昔は貴重なたんぱく源として食べられていました。仏教の教えで四つ足の獣は食べないとされていた江戸時代でも、イノシシは「山くじら」とか「ぼたん」と呼ばれて肉料理を出す店があり、浮世絵の江戸風景にも描かれています。シカ肉は「もみじ」と呼ばれて山間部では食べられていたようです。

千葉県としてはジビエ料理を広めて、ふるさと納税の返礼品にするくらいの取り組みをして欲しいものです。キョンは美味しいそうなので焼肉用、ステーキ用でも売れるでしょう。「ぼたん鍋セット」も食べたいなあ。まず、解体処理業者を育成しなくては。保健所の検査員も増やさなくてはなりませんし、道のりは遠いですかね？